

14億人の健康を支えるインドの医療技術。新型コロナ・ウイルスのワクチン開発も成し遂げたインドは、ジェネリック薬の製造大国でもあります。

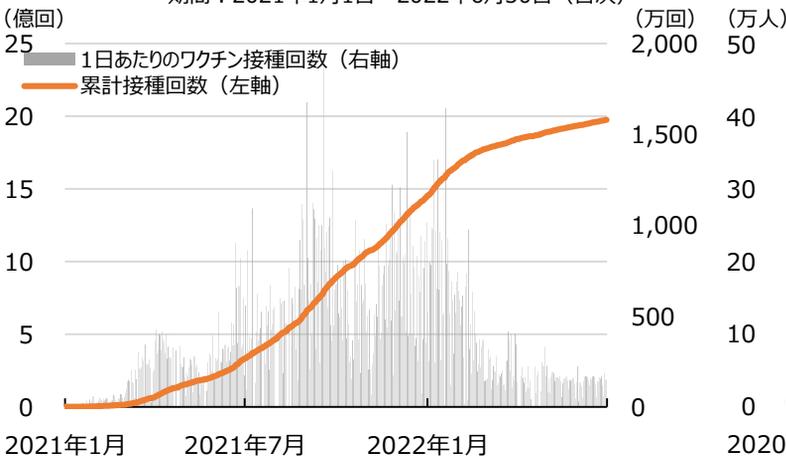
メイド・イン・インド ～ インドの医薬品製造・開発事情 ～

▶ 世界を驚かせたワクチン開発技術

- ✓ **インド製薬企業は、2021年に2つの新型コロナ・ウイルス・ワクチンを開発しました。**バーラト・バイオテック社の「**コバクシン**」と、ザイダス・カディラ社の「**ザイコブD**」です。これらは、英国アストラゼネカ製ワクチンのインド版「**コヴィシールド**」とともに、新規感染者数を劇的に減少させることに大きく貢献しています。特に「コバクシン」は世界保健機構（WHO）からも承認され、その有効性は80%を超えていることに加え、2～8℃で保管可能、有効期限が9か月間という特性から、「他の国々での活用が期待できる」とWHOから言及されています。
- ✓ インドの医薬品製造・開発技術の高さを改めて世界に知らしめる一助ともなりました。

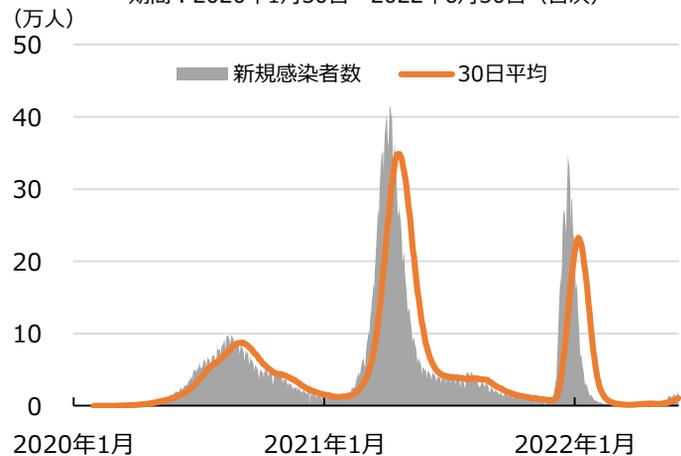
インドのワクチン接種状況

期間：2021年1月1日～2022年6月30日（日次）



インドの新規感染者数の推移

期間：2020年1月30日～2022年6月30日（日次）



▶ 「ジェネリック薬」製造大国インド

- ✓ このような高度な医薬品製造・開発技術の背景には、インド製薬業界の発展を支えてきた独自の特許制度が貢献しています。先進国製薬企業が莫大な研究開発費を投じた薬は、先進国の特許を取得することにより権利保護され高額で販売されることが一般的です。しかし、インドにおいては、そのような医薬品でも、条件が揃えば「**ジェネリック薬**」として製造・販売できてしまう仕組みがあります。先進国で特許が切れていない場合でも、インドでは同じ化合物の医薬品を異なる製造方法で製造すると、「ジェネリック薬」として製造・販売することが可能です。
- ✓ この結果、先進国の大手製薬企業がインド進出を敬遠し、インドの製薬企業は発展を遂げました。とはいえ、インドの製薬企業は先進国の製薬企業と持ちつ持たれつの関係も築いています。先進国の製薬企業はインドの高い医薬品合成技術を低コストで活用しつつ**医薬品の「原薬」製造のアウトソーシング先としてインドを活用**しています。
- ✓ 今や、医薬品の輸出大国とも称されるインドですが、日本においても需要が高まる「ジェネリック薬」は、14億もの人口を抱えるインドだけでなく新興国での需要が一段と高まっています。「ジェネリック薬」をはじめとしたインド製薬企業への期待は一層高まることが考えられます。



ご留意事項

- 当資料は、情報の提供を目的として、パインブリッジ・インベストメンツが作成した参考資料です。金融商品取引法に基づく開示書類ではありませんし、特定の有価証券の売買、ファンド、商品を勧誘、推奨するものではありません。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性・完全性について当社が責任を負うものではありません。当資料中の記載事項、数値、図表等は、当資料作成日時点のものであり、市場の環境やその他の状況によって予告なく変更することがあります。なお、当資料中のいかなる記載事項も、将来の投資機会または運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。
- 投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。



パインブリッジ・インベストメンツ株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第307号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会